

## 家庭科における授業づくりのポイント

### 1 家庭科における主眼について

家庭科の主眼は、二つの観点から書きます。一つは、内容【知識及び技能】です。二つは、その内容を捉えるための場面や活動【思考力、判断力、表現力等】を書きます。

#### ○主眼の作り方の例

主眼1 □□【知識】が分かり、■■【技能】することができるようにする。

2 ～場面において、～する活動を通して、～について話し合うことができるようにする。

#### 【第5学年題材「整理・整とんで快適に（2/4時）」の主眼1の例】

(1) 解説書を読んで題材で捉えさせたい内容を絞る。

内容項目 B 衣食住の生活（解説書 p 58～p 61）+C 消費生活・環境  
 気持ちよく生活するために整理・整頓が必要であることが分かり、身の回りの整理・整頓の仕方を理解し、適切にできるようにする。  
 ア (イ)住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。  
 イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、適切な住まい方を工夫すること。

#### 【題材を通して捉えさせたい内容】

- 整理・整頓が必要であることが分かる。
- 整理・整頓の仕方を理解する。
- 整理・整頓が適切にできる。
- 環境に配慮した物の使い方  
方を理解する。

(2) 家庭科の学習過程に照らし合わせて、題材を構成する。

【題材導入】生活を振り返り、生活の課題を設定する。

【題材展開】解決方法を検討し、課題解決の計画を立てる。

実践活動を行い、実践活動の評価・改善を行う。

【題材終末】できるようになったことを振り返り、学習をまとめる。

#### 【題材構成】

- ①課題設定
- ②整理・整頓の仕方
- ③物の使い方
- ④題材のまとめ

(3) 教科書の内容から、本時内容を明確にする。

②整理・整頓の仕方「整理・整頓の仕方を理解し、適切にできる」

整理・整頓の仕方

- 同じ種類の物をまとめる。
- よく使う物は手前に置く。
- 仕切りや小箱を使って区切る。
- 見た目もわかりやすくする。

よく使う物を  
わかりやすくまとめる

#### 【主眼】

整理・整頓をするときは、必要な物だけを残して、残した物を同じ種類でまとめたり、よく使う物を手前に置いたり、区切ったりするとよいことが分かり、学校の引き出しの中を整理・整頓することができるようにする。

### 2 家庭科における題材指導計画について

家庭科の題材指導計画では、題材導入で題材を通した課題を設定する「気付く・見付ける」段階、よりよく課題解決をすることを目指す「わかる・できる」段階、生活の中での実践につなげていく「生かす・深める」段階といった三つの段階を大切にします。

段階	内容	具体例（第5学年題材「整理・整とんで快適に」）
気付く・見付ける	生活を振り返り、生活をよりよくするための問題を見付け、できるようになりたいこと（課題）を設定する。	整理・整頓のよさについて理解し、自分の身の回りの整理・整頓についての問題を見付け、「整理・整頓ができるようになる」という課題を設定する。
わかる・できる	できるようになりたいこと（課題）ができるようになるための見通しをもち、実践的・体験的な活動を通してできるようになる。	整理・整頓の仕方についての見通しをもち、実際に引き出しの整理・整頓を行う活動を通して、整理・整頓をするとは何をどうすることなのかを理解し、適切にできるようにする。
生かす・深める	学習を通してできるようになったことを振り返り、生活の中での新しい課題にも取り組むことができるようにする。	課外の活動で行った家庭での整理・整頓の実践について振り返り、これからの生活の中での身の回りの整理・整頓について取り組むことを決める。

### 3 家庭科における一単位時間の学習過程について（わかる・できる段階において）

家庭科の学習過程では、子供たち自身がめあてをもち、解決する方法を考え、実践を通して実感を伴って解決方法について調べていく問題解決的な学習過程を大切にします。

#### ○一単位時間の学習過程

段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICT活用
導入	<p>1 前時までに学習したことや、これまでの生活経験からめあてについて話し合う。</p> <p>・前時までの学習 ・生活経験</p> <p>本時の学習場面</p> <p>(本時のめあて) ~について調べよう。</p>	<p>○本時のめあてをもつことができるように、前時までの学習場面と本時学習場面を比較する活動を設定する。</p>
展開	<p>2 実践的・体験的な活動を行い、設定した課題をよりよい方法で解決する。</p> <p>(1) 既習や生活経験を基に、設定しためあての解決方法を予想し、解決の見通しをもつ。</p> <p>【視点】課題解決の際に大切にすること 【方法】どのような活動で課題を解決するのか</p> <p>(2) 実践的・体験的な活動を基に、課題の解決方法について調べ、よりよい解決方法について話し合う。</p> <p><b>実践的・体験的活動</b></p> <p>解決方法 A                      解決方法 B</p> <p>解決方法 C                      解決方法 D</p> <p>【共通点】どの解決方法にもいえることは・・・</p> <p>どの解決方法でも□□を行っているから、~するときには、□□することが大切だ。</p> <p>(本時のまとめ) ~は、□□するとよい。</p>	<p>○解決方法の見通しをもつことができるように、前時までの表現を学習者用端末で振り返る場面を設定する。</p> <p>○よりよい解決方法に気付くことができるように、「どの班（ペア）にも共通していることは何か」と発問する。</p>
終末	<p>3 本時学習を振り返り、生活の中で実践していきたいという思いを交流する。</p> <p>・今日学習した~は、家でもよくあるから実践したい。 ・生活の中の△△の場面で実践することができそうだ。</p>	<p>○できるようになった達成感を味わうことができるように、解決する前後の様子を比較して提示する。</p>

### 4 家庭科における ICT の活用について

家庭科では、「視点と方法」、「課題解決の過程（計画と結果）」、「振り返り」を学習履歴として蓄積していきます。そして、これらの学習履歴を以下の二つの機能を用いて活用します。

- 保存機能…普段の生活を記録し、課題の設定に生かすことができるようにする。  
既習を振り返り、学習の見通しをもつことができるようにする。
- 共有機能…解決方法を交流し、自分の解決方法に取り入れることができるようにする。

#### ○ICT の活用の具体例 【第5学年 題材「クッキングはじめの一歩」において】

保存機能	共有機能
<p>導入段階でゆでる調理の様子を記録し、ゆでる調理を適切に行うことができたかどうか振り返る。</p> 	<p>題材を通したワークシートで、毎時間、自分で見通しをもって課題を解決することができるようにする。</p> 
	<p>ガスコンロの使い方について調べたことを交流し、安全に気を付けて使用することができるようにする。</p> 